

# 文教厚生委員会（1月22日～23日）

## 幼保一元化施設と「人生の現役養成道場」を視察

文教厚生委員会（江田五六委員長ほか6人）は新宿区立四谷子ども園とリハビリ施設「夢のみずうみ村」を視察しました。

### ＜新宿区立四谷子ども園＞（小学校と併設）

開園●平成19年4月。2幼稚園と1保育園が統合

対象●0歳児から小学校就学前まで

目的●子どもの成長と発達を見据えた一貫した保育・幼児教育。地域の子育て支援の拠点。

時間●0歳児▶午前9時～午後6時30分、1～3歳児▶午前9時～午後6時30分（最短）、～午後8時30分（最長）、4・5歳児▶午前9時～午後3時（短時間）、～午後4時30分（中時間）、～午後6時30分（長時間Ⅰ）、～午後8時30分（長時間Ⅱ）

まとめ●本村は、村松保育所と宿幼稚園を一緒にし、新しい子どもの施設を計画中である。幼保の連携はそれぞれ長い歴史と管轄省庁が違うことで多くの問題点がある。四谷子ども園では、行政から派遣された園長が両方の良さを合わせ、現場主義的発想と解決策で乗り越えてすばらしい運営をしている。本村でも現場の声を良く聞き、独自の解決策をもって幼保一元化に取り組むことにより、時代にあった事業になると考える。

### ＜夢のみずうみ村 山口デイサービスセンター＞

施設の基本方針●「人生の現役養成道場」として利用者が主体性を持って自ら1日の行動を決めていく。

行動メニュー●料理、陶芸、プール、機械トレーニング、園芸、パソコン、マッサージなど

まとめ●自分の体調や気分に合わせて選択でき、利用者が意欲的に取り組むことで生きがいを感じることが出来るメニューになっている。このような施設が村内にできれば、民間の介護事業のモデルケースとなり、介護事業のレベルアップにつながると考えられる。



四谷子ども園視察風景



中丸小学校通学路

発電所から5kmを原子力災害時に即時避難が必要な予防的防護措置を準備する区

登下校する際の工事車

改定の概要■東海第二

議員（質問）

編」の改定

食提供を維持。

東海村地域防災計画

境の維持。▼既存グラ

「原子力災害対策計画

ウンドは使用可。▼給

置等を考慮していき

確保。▼騒音等の影響

ルートには警備員の配

線の明確化。安全性の

置等を考慮していき

機能と工事エリアの動

北門が主であり、警備

工期中の留意点▼学校

員をつける。西門から

ながら、段階的に建て替

配置してもらいたい。

える。

都市政策課（答弁）

工期中の留意点▼学校

工事車両の出入りは

ながら、段階的に建て替

危険である。警備員を

設けず、既存校舎や新

配置してもらいたい。

校舎の一部を活用しな

危険である。警備員を

建替計画■仮設校舎を

危険である。警備員を

月々27年11月（予定）

危険である。警備員を

工事期間■平成25年7

危険である。警備員を

中丸小の建設設計

両の警備を徹底してほ

## ・ 行動に結びつく原子力災害対策計画に

## ・ 中丸小建替工事での安全の徹底を

## 議会全員協議会（3月26日）

域（PAZ）に設定し、村全域をPAZ圏にした。また、原子力施設等の状態に応じた防護措置の準備及び実施について定めた。

※今回は暫定的な改定で、今後必要に応じて改定する予定。避難計画などの課題についても今後見直しを進めていくこととしている。

議員（意見） せっかく立てた計画も住民に理解してもらわないと絵に描いた餅になってしまう。東海村として精査し、シンプルなアクションプランを作ってほしい。行動に結びつかないと生きてこない。